

静岡理科大学 広報誌



キャンパスニュース

C A M P U S N E W S

2009

1

VOL.34



特集

全日本学生フォーミュラ大会参戦!!
ビジネスプランコンテスト入賞

全日本学生フォーミュラ
での躍進!

今大会で3回目の出場となるシスト
フォーミュラプロジェクトが、さらなる
進化を遂げました。

第6回全日本学生フォーミュラ大会

第6回全日本学生フォーミュラ大会が9月10日(水)～13日(土)にエコパにて開催されました。今大会では、エンデュランスでマシントラブルに見舞われるものが見事完走を果たし、昨年度総合成績より大きく躍進する結果となりました。

今大会を終えたシストフォーミュラプロジェクトの高田裕太郎部長、井上達矢副部長に、大会を振り返っての感想、来年度の目標や将来の夢などについてお話を伺いました。

- 司 会 「今大会に向けて、昨年度から特に力を入れた改善箇所はどの部分ですか？」
- 高田さん 「今大会では「軽量化」ということを強く意識して車両の製作を行いました。前回大会時には十分に行えていなかった、設計段階でのチーム内の意見統制や、コンピュータ技術を使うことで、論理的な軽量化が行えました。」
- 司 会 「では、今大会が終わって、どのようなことを今思いますか？」
- 井上さん 「大会中はミスがないように務め、結果、総合成績12位と昨年度の33位から大きく躍進できましたが、エンデュランス後半のマシントラブルもあり、好成績を残せたという嬉しさの反面、十分に実力を発揮しきれなかった悔しさもあって複雑な心境です。」
- 司 会 「高田部長は本年度で大学を卒業されますが、後輩に伝えたいことや、期待することは何ですか？」
- 高田さん 「みんなにはまず、楽しく部活をやってもらいたいと考えています。その上で、何をすることが一番いいのかといったことを見つけ出し、それを実現できるようになってもらいたいです。」
- 司 会 「来年度の大会に向けた課題はありますか？」
- 井上さん 「いくつかありますが、まずは静的審査の成績を上げること。来年度は部員が少なくなるので効率よく働けるようになることが課題です。あとは今大会のマシントラブルの原因となったネジが、緩まないような構造を考えることです。」
- 司 会 「将来の夢は何ですか？」
- 井上さん 「自動車メーカーに就職し、ユニークで若者が乗りたくなるような車を作りたいと思っています。」
- 司 会 「最後になりますが、メッセージをお願いします。」
- 高田さん 「今大会で総合12位という結果を残すことができたのは、活動を支援して下さったスポンサー企業の皆様、活動を応援していただいた大学教職員の皆様のおかげです。特に、顧問の土屋先生をはじめ、大塚先生、情報センターの高林さんには、多くの時間を費やしていただき、大変ありがたく感じています。来年度は、更なる成績向上を目指してチーム一丸となって努力していきますので、変わらぬご支援の程、よろしくお願いします。」



遠州灘

2008年の言葉は“変”。アメリカ大統領選でも解るように多くの人々は“チェンジ”、“変”化を求めているのがわかる。しかし、私は“汚”をあげたい。輸入米のカビ汚染、中国産レトルト食品の農薬汚染、伊藤ハムの水のヒ素汚染等、またもや私たちの生活に関わる「食の安全性」が問題となった年であった。

ヒトの生命に関わるものなのに何故？不思議に思われる。根底にあるのは人の命より“もうけ”が優先しているところからきているように思えて仕方がない。

本学も「食の安全性を守る科学の目を持った人材育成」をかかげて出来た「バイオ食品化学コース」の1年生が順調に育っている。今後彼らが“人命を尊重する食づくり”の授業を大いに学び、そして社会に出て活躍し「食の安心・安全性」の保証された社会に“変”化させてくれることを期待したい。

(S)

学科紹介 理工学部機械工学科

理工学部機械工学科は20年度から、ロボット・ヴィークル工学と航空工学コース、総合機械工学コースの3コース体制でスタートしました。どのコースも講義のほかに実験実習を通して機械工学の基礎をしっかりと学びます。そのうえで、ロボット・ヴィークル工学コースはロボットや自動車など、実際のものに触れ、構造や原理を知って、それをもとに新しいものづくりに挑戦します。航空分野への進出は本学にとって0からのスタートですが、航空機の機体構造やエンジン分野の実務経験豊富な2人の先生に着任いただき、本格的な設備を導入しました。富士山静岡空港や航空関連企業にも協力いただき、充実した教育研究環境を整えつつあります。総合機械工学コースの学生は、ロボット・ヴィークル工学コースと航空工学コースを選択でき、両コースの学生とほぼ同じ勉強を行います。特にこのコースは、日本技術者教育認定制度で認定される教育課程を目指しており、このコースを卒業すると技術者最高の資格である「技術士」の第一次試験が免除される予定です。



遠州地域は自動車産業やその関連のものづくり企業が多く、また、愛知、岐阜は日本最大の航空機産業の中心地です。この地域で本学卒業生が活躍し、技術者として主導的な役割を担うことを期待しています。

新任教員の紹介



平成20年9月1日付採用

理工学部機械工学科 准教授 **武藤一夫**

専門分野：精密機械、金型設計加工（多軸制御加工） CAD / CAM / CAE / CAT・生産情報・XML技術、AE・計測工学、福祉工学

略歴：職業訓練大学校卒、東京農工大学工学部博士課程修了。職業訓練大学 助手・講師を経て、本学准教授に就任。

趣味：読書、絵画鑑賞・制作、映画鑑賞、ドライブ



学長特別表彰

平成20年9月10日(水)～13日(土)に開催された「第6回全日本学生フォーミュラ大会」(主催:社団法人自動車技術会)において、シスト・フォーミュラ・プロジェクトが「日本自動車工業会会長賞1位」「省エネ賞1位」に輝きました。

その栄誉を称え、10月29日(水)に「学長特別表彰」が授与されました。



特集

理科が大好きな子どもたちを育てよう！

本学は開学以来、袋井市教育委員会と連携しながら、袋井市内の小学生、中学生への理科実験講座を行っています。今回、袋井市教育委員会の大橋学校教育課長より、ご意見をいただきました。

「子どもたちのゆたかな心を育む静岡理科大学」

袋井市教育委員会 学校教育課 課長 大橋弘明

現在、袋井市内の園・学校では、「心ゆたかな人づくり」をするために教育活動を展開しています。「ゆたかな心」の中には、相手を思いやる心、社会に貢献しようとする心、美しいものに感動し自然を愛する心など、様々な内容が含まれますから、学校だけでなく保護者や地域の皆様の協力を得て、人づくりを進めていくことが重要となっています。

その意味において、貴学が、毎年8月に開催しています中学生を対象にした電気に関する実験講座は、とても意義のある行事となっています。本講座は、電気・電子に関心をもつ若者を増やすことを目的として計画されたものですが、子どもたちにゆたかな心を育むよい機会にもなっています。中学生は、貴学の学生とふれ合うことによって、作品の完成に向けて、粘り強く考えることが

大切なことを学んでいます。また、一生懸命指導してくださった大学生の皆さんへの憧れや感謝の気持ちをもつことにもつながっています。

今後も、将来を担う子どもたちを育んでいけるよう貴学と市内の小・中学校との連携を一層深めてまいりたいと考えています。



周南中学校で理科実験講座を行う安教授

Citizens' VOICE

市民のみなさんから静岡理科大学へのメッセージを紹介します。

[市民の声]

最近の学生は



エコバハウス
原田創史さん

私も自身の大学を卒業して、気付けば10年近く経とうとしています。「まったく。最近の学生は！」という言葉をちょっと使ってみたい年齢にさしかかりました。

静岡理科大学さんとは主に、インターンシップ(3年目)、創造・発見(2年目)、学生フォーミュラ等を通じて学生さんと接点があり、年々交流が増えています。接していて感じることは、「まったく。最近の学生は！」を使うチャンスがなかなか無いことです(残念ながら)。私が考えていた学生像よりも素直で、多少汚れるような作業でも一生懸命やってくれます。

日常では、大学生と接する機会がなかなかないので、理工科大学の学生さんと接していなければ、「まったく。最近の学生は！」と思っていたかもしれません。

今後も新たな学生さんに出会えることを楽しみにしています。

学びと遊び



新袋井フォーラム 会長
小原 望さん

2005年に新袋井フォーラムの発会式を大学で行って以来、小栗先生が事務局長を務めて下さっていることもあって、大学には時々お邪魔させて頂いています。大学を訪れたり、「キャンパスニュース」を読ませて頂くと、学生の純な瞳に接することができ、嬉しく思います。

しかし、学生諸君が卒業後に進む今の実社会は、豊かで美しいか考えると首を傾げざるを得ません。日本由来の美德はどこに見ることができるでしょう。侘び寂びの優雅な心、他利自利の日本の精神は風化してしまったのでしょうか。

教外別伝という言葉があります。ものを極めるといった悟りは、言葉や文字で伝えられるものではなく、心から心へと伝わるという教えです。学び、ものを極めることは人生の大事な作業ですが、相手の心を思いやる情を忘れてはなりません。大学は学ぶと共に友情を育む場所でもあるはずで。

学生諸君には、「遊びをせんとや生まれけん」という良寛の言葉をよく噛みしめて、より多くの友人を作り素敵な大学生活を送って欲しいと思います。

ビジネスプランコンテスト入賞

11月7日(金)、物質生命科学科2年生の廣岡瞳さんと田中恵梨香さんが、がんばる起業応援ネットワーク主催のビジネスプランコンテストで奨励賞を受賞しました。

2人で提案した「大学生による理科実験講座:みんなのラボ」は、小・中学生に対する多様な理科実験講座を開催するとともに実験講座用ハンドブックの作成・販売を行うというプラン。

今回、このプランの発案のきっかけや将来の夢について二人にお話を伺いました。

司 会：まず、「ビジネスプランコンテスト」に応募したきっかけを教えてください。

田中さん：私達のサークル活動を知っている先生から、「これをビジネスにすれば良いよ。ビジネスプランコンテストがあるから出してみるといいよ。」と言われ、2人でやってみたいねと言う事になり応募しました。

司 会：今回のプランの発案のきっかけは何ですか。

廣岡さん：今、子供たちの理科離れが叫ばれているため、どうすれば解消できるかと考えた時、このプランを思いつきました。私達は科学が好きなので、子供達にも科学の実験を通して科学を好きになってもらおうと考えました。

司 会：プランを作成する上で大変だったことはどういうことですか。

田中さん：2人の中で子供達の「理科離れ」についての危機感や、実験や科学の面白さや楽しさを伝えたいという思いは、合致していたので次から次へとどのような実験をしていくのか思い付いたのですが、そこからビジネスとして成り立つにはどうしたら良いかを考えるのが大変でした。

廣岡さん：既に似たようなビジネス、団体があるためにそれらとどのような違いを持たせるかで頭を悩ました。

司 会：それでは今回「ビジネスプランコンテスト」に応募してよかったことは何ですか。

廣岡さん：自分達の提案したプランを、企業の方などに評価されたことがうれしかったです。企業の方などには、「実際にやらないか」との話をいただけたのもうれしかったです。

田中さん：ビジネスプランを発表することで他の人の意見を聞く事が出来たことと、プランを評価してもらったこと、普段交流する事の出来ない企業の人達などとお話ができ、とても良い経験になりました。

司 会：将来の夢は何ですか。

廣岡さん：具体的にはまだ決まっていますが、研究職に就きたいと考えています。そして、それと共に未来の研究者になりうる子供達を育てられれば良いと思います。

田中さん：まだどんな仕事をしたいかははっきりしたものではありませんが、近い将来の夢として、ビジネスとはいかないまでも、このプランを実現させ、色々な人に科学の楽しさを知ってもらえるような活動をしたいと思っています。

司 会：今回、受賞したプランや今後自分のやってみたいプランが、大きなビジネスに繋がっていくように頑張って下さい。本日はありがとうございました。



写真左から 田中さん、廣岡さん

スポットライト

がんばれ!理工科大学生



前列中央 池田さん

現在私は、大学生活最後となるNHK大学ロボコンへの出場を目指して、書類作成に力を入れています。それだけでなく、マイコンカーラリーという大会に向けて1年ほど前から3年生全員で1台のマシンを作っており、私はプログラムを担当しています。

サークル活動を通して、ものづくりの楽しさを学びロボットを作る技術力も身に付けることができましたが、何より私が得た一番大きいものは、今まで一緒に活動してきた仲間たちです。

私が部活の代表になったばかりのとき、仕事を一人で抱え込んだことで作業の量が多くなり、行き詰まって全てを投げ出したいようになっていました。そこで仲間たちは「一人で抱え込まずにもっと自分たちを頼ってくれ」と言ってくれました。その一言ではじめて、自分の周りには支えてくれる仲間がいることに気付く事ができ、頑張る事ができました。

私はあと1年しか大学にいたことができませんが、今後は自分がものづくりの最前線ではなく裏方として支え、後輩たちにも私のように仲間がかけがえのないものになるように多くの事を伝えて行きたいと思います。

池田敏基 (情報システム学科3年/M.C.F.部長)

サークル紹介

ブラスバンドサークル

部長 仁藤昌彦 (情報システム学科4年)

こんにちは、ブラスバンドサークルです。全員で16名ほどの創部数年のまだ小さなサークルですが、力いっぱいがんばって練習しています。最近、昼休みの時間帯に校内で演奏を行い、若干ですが認知度も上がったように思います。「この大学にもあんな奴らがいるんだな」と学生を始め、教職員の方々にも知られる存在になりました。本年度はこれだけでなく、大学を飛び出して地域イベントにも参加しました。もしかしたら見られた方もいるのではないのでしょうか?これからがんばって活動していきますので、私達の演奏を聞き逃がしたという方は、是非、大学祭などでのステージ演奏にお越しください。そして、躍進するブラスバンドサークルをこれからも応援してください。



学外表彰

平成20年11月19～21日、電気電子工学科の小川敏夫教授が、韓日国際セラミックスセミナーにおいて、「第25回(四半世紀)記念Seminar功績賞」を受賞しました。小川教授は、第11回大会から参加し、毎年研究発表を行うとともに、若手研究者の育成にも貢献しています。また、同セミナー組織委員、開催実行委員長なども歴任しており、これら功績が高く評価されて今回の受賞となりました。



写真右:小川教授



写真右:見崎講師

平成20年11月30日、機械工学科の見崎大悟講師が、財団法人浜松電子工学会奨励会の「第22回高柳研究奨励賞」を受賞しました。今回の受賞は「顕微鏡の画像認識を用いた圧電素子駆動型マイクロロボットによる精密マニピュレーションに関する研究」を行っている見崎講師の研究成果が高く評価されたためです。

食品化学研究室

食品の安全性と機能性を「毒味役」の動物細胞を使って、迅速に評価できるシステムを開発しています。既に医療分野では感染菌の薬剤感受性試験として実用化されましたが、食品分野はコスト高や応用範囲が限られ苦戦しています。

地域資源の利用と産業化のためにも、「毒味役」を使って、安全性と機能が保証された食品を提供できればと願っています。また、学生も地域で活躍できる人材として成長してもらいたいと願っています。

* 山庄司教授プロフィール

大阪市出身。農学部の農芸化学科に進学しましたが、同級生全員農業に無縁な人ばかりで、就職先も農業に無縁でした。これが後に、「農学栄えて農業滅びる」ということになってしまったのかもしれない。卒業後は大学や短大で食品関連を教えたり、企業の研究所で商品開発をしたり海外の食品工場の建設に従事してきました。現在は地域資源の活用と食品産業振興という方向で、研究を考えています。



研究室学生からひとこと

松田卓子

物質生命科学科初の食品系研究室として、食品成分の機能性や食品中の生菌数調査に関連したテーマで研究を行っています。できたばかりの研究室ではありますが、実験機器も充実し、一瞬で生菌数を測定する機械や動物細胞を用いた実験は他ではなかなか出来るものではありません。学生と先生の仲もよく、楽しい雰囲気です。実践向きの技術が習得できる研究室です。

授業科目の紹介



電子基礎実験は、電気電子工学科の2年生後期に開講されている必修科目です。1年生および2年生前期までに学習したダイオードやトランジスタ、各種電子回路などに関連する11の実験を行います。実験終了後、実験結果を評価・検討し、考察を行います。さらに、これらの一連の検討結果や実験過程を文書にまとめて報告書を作成し、次週までに提出し

電子基礎実験

ます。本実験を通じて、電子技術者として必要な実験の手順、測定技術の基本および電気・電子回路の基本を実地に体験し、講義内容と相俟って理解を深めることができます。写真は、低周波増幅回路の製作の風景であり、回路基板にトランジスタや抵抗、コンデンサを半田付けしているところです。

近年における学生の多様化を考慮して、来年度からは実験テーマの変更を行います。抵抗やコンデンサ、インダクタの測定などのより基礎的な内容を新たに取り込み、さらに報告書の作成指導の充実を図っていくことにしています。

参与会開催

11月7日（金）に「参与会」を開催しました。荒木学長より大学及び大学院についての近況報告終了後、各学科長より今後の学科計画について説明を行いました。質疑応答では、本学の教育・運営に関して、参与の皆様から貴重なご意見をいただきました。



オープンキャンパス

夏のオープンキャンパスが7月19日(土)、8月9日(土)、10日(日)、8月23日(土)の4日間開催され、高校生・保護者ら809名が訪れました。当日は150名の在学生在が案内役を務め、研究室やクラブ活動の様子を紹介しました。参加者はアットホームな雰囲気の中で、進化した各学科内容や、キャンパスライフを体験しました。



市民体験入学

8月24日(日)、本学にて「市民体験入学」を開催し、256名が参加しました。全体講義には、前宮城県知事で慶應義塾大学教授の浅野史郎さんが「浅野史郎のジョギング日記～走りながら見た地球・環境～」と題して講演を行った後、午後からは、本学教員による10テーマの選択講義を行いました。



中学生のための実験講座

本学では「子供達にもっと電気・電子に興味を持ってもらおう！」と電気に関する実験講座を開始し、8月8日(金)の開催で10回目を迎えました。今回は、袋井市内の22名の中学生がこの講座に参加し、モータを使った簡単なロボットや電気回路を作ったり、電気の実験を通じて、電気の面白さを体験しました。



高・大一貫教育夏期実験講座

8月26日(火)～29日(金)の4日間にわたり、静岡北高校高・大一貫コース2年生・3年生と星陵高校高・大一貫コース2年生・3年生を対象に、大学の設備を使った夏期実験講座を行いました。3泊4日の日程で、生徒達は様々なテーマの実験に取り組み、文字通り「実験漬け」になって、科学の面白さを体験しました。なお、この講座は大学の単位として認定しています。



公開講座

9月27日(土)・10月25日(土)に、本学にて「後期公開講座」を開催しました。1回目は、「CGから見える世界」をテーマに本学の手島裕詞助教とゲームデザイナー・シナリオライターの菊田裕樹氏が、2回目は、「航空機がもつ大きな可能性」をテーマに本学の前川昭二教授と(独)宇宙航空研究開発機構航空プログラムグループ事業推進部長補佐の吉田憲司氏が講演を行いました。



大学祭

11月1日(土)・2日(日)の両日、第18回大学祭「SISTIVAL '08」(実行委員長:3年 桑山 祐輝さん)が、快晴に恵まれた中開催しました。テーマは「おおはしゃぎ」。今回はメインゲストに、R&Bシンガーの山口リサさんを迎え、市民も含めた多くの来場者で、テーマ通り「おおはしゃぎ」のうちに終了しました。



サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)実験講座

本学物質生命科学科が、横須賀高等学校と連携し11月9日(日)・29日(土)の2日間、「物質科学からのエネルギー問題へのアプローチ」をテーマに、SPP実験講座を開催しました。受講した9名の高校生は、1日目の「電気の測定:電球とLEDの消費電力(担当:笠谷祐史准教授)」で、電圧・電流・抵抗・電力について学習し電球とLEDの消費電力の違いを調べ、2日目の「色素増感太陽電池の作製と光照射電圧測定(担当:住谷實教授)」で、色素増感太陽電池を自作し、光照射による発生電圧の測定、電子オルゴールを鳴らす実験を行なうことで、電気エネルギーの発生・測定・使用について学びました。



防災訓練

12月19日(金)に、本学にて「防災訓練」を実施しました。訓練は、「緊急地震速報により地震発生が告知された後に、地震が発生。直後に火災が発生。」という設定で実施しました。当日は学生、教職員ら340名が参加し、参加者はグラウンドへの避難後、消火器を使った消火活動を体験しました。



留学生の紹介 (中国・韓国)

金 鎮浩(きむ じんほ)さん

静岡理工科大学に来て8ヶ月が経ちました。その間、ボランティア活動をしながらか人間的に成長するのは勿論、軽音楽同好会に加入して学園祭で、皆さんの前で歌ったことは、私にとって一生忘れることができない貴重な宝物になります。

金 孝珍(きむ ひょじん)さん

日本語の先生になる夢を持っていて、日本語を学ぶために静岡理工科大学に来ました。理工科大学では、勉強ばかりでなく色々な経験と出会いがありました。ボランティア活動、学園祭、サークル等みんなと一緒に過ごした楽しかった時間は心の中で忘れないはずですよ。

田 琛(でん ちん)さん

高校時代から、日本の文化や歴史にとっても興味を持っているので、日本語の勉強を始めたのです。そして、日本語を専攻して2年間勉強し、やっと日本に来るチャンスももらいました。日本にいる1年間を大切に、一生のいい思い出を作りたいです。

叶 萌(よう ぼう)さん

子供の頃から、日本文化に憧れてきて、大学に入った時、日本語を専攻にしました。最初はちょっと新しい環境に困ったり、ホームシックしたりしたけど、今は毎日楽しく、充実して暮らしています。静岡理工科大学で留学することができ、本当によかったと思います。

胡 競超(こ きょうちょう)さん

私は中国での専門は日本語でしたが、ずっと日本らしい生活を体験したかった。今年9月から留学生として日本に来て、本当に嬉しかった。袋井の人はみんな優しいと思います。この留学の1年間、自分の日本語が上手になる様に、私は毎日を大切にします。



写真向かって上段左から ほうじょうさん、でんちんさん、こきょうちょうさん、きむじんほさん
下段左から ちようしんほうさん、ようぼうさん、じよきよくえいさん、きむひょじんさん

張 辰鳳(ちようしんほう)さん

日本のアニメドラマに興味を持っていますから、日本語を学び始めました。静岡理工科大学へ留学に来て本当にうれしいと思います。今もだんだん日本の生活に慣れるようになりました。そして、日本人の真面目さと親切さを身を持って感じました。

方 舒(ほう じょ)さん

いいチャンスに恵まれて、日本に留学できたことが本当にうれしい限りです。こちらで2ヶ月の間いろいろな活動を体験して、日本のシルエットがぼんやりと見えてきます。これからの毎日も大切にして、活き活きと送りたいです。

徐 旭嬰(じよ きよくえい)さん

生まれてから初めて故郷を離れて静岡理工科大学で留学しています。日本の文化や言語に深い興味を持っているので、日本での留学ができて本当に良かったと思っています。これから、無駄な時間を無くすように努力したいと思っています。

後援会 だより

父母懇談会の開催

11月1日(土)に「父母懇談会」を開催しました。大学祭で賑う中、287名と多くの方にご参加頂きました。全体会では、塚本光洋後援会会長並びに荒木学長挨拶の後、静岡県就職相談センター・キャリアカウンセラーの紅林佳子氏から「変化する働き方 ～社会が若者に求めている力とは!!～」と題した講演を頂きました。続いて「学科別懇談会」では本学教員から、学科の教育内容・就職状況等の説明を行いました。午後から実施した「個別面談」には77名の方が希望され、助言教員からの説明に熱心に耳を傾けていました。保護者の皆様からご意見を伺うことができた、貴重な時間となりました。



同窓会 だより

ホームカミングデーの開催

11月2日(日)の大学祭2日目に「第8回ホームカミングデー」を開催しました。当日は、卒業生やご家族、教職員など約200名の方が参加され、旧友や恩師との再会を楽しんでいました。今回は、新企画の「コミュニケーションゲーム」を通じて、新たな同窓生の輪が生まれ、恒例の大抽選会とあわせおおいに盛り上がり親交を深め合うホームカミングデーとなりました。

なお、今回ご多忙の中にも拘わらずホームカミングデーの企画・開催にご助力いただいた同窓会役員の皆様にもお礼申し上げます。



編集後記

今回、学生の活動としては学生フォーミュラ入賞、ビジネスプランコンテスト入賞、プラスバンドサークル、NHKロポコン等の学生の活動が数多く紹介されており、学外に向けた教員・学生の取り組みが数多く紹介されています。特に学生に関しては活躍目覚ましいものがあり、楽しく愛校心を持って活発な活動をしています。これからも学生の活躍を様々な面から応援していきたいと思っています。(T)

静岡理工科大学キャンパスニュース
平成21年1月15日発行
企画・編集・発行 / 静岡理工科大学 大学広報委員会
〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2
TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110
<http://www.sist.ac.jp>